

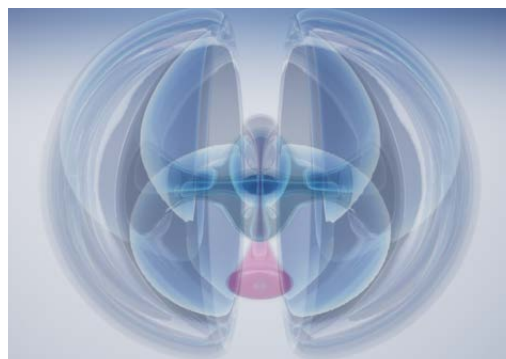
◎ ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

## 野村仁「時空と生命:表徴化予想と顕れ」

### Hitoshi Nomura *Space-Time and Life: Signifying Conjecture and Manifestation*

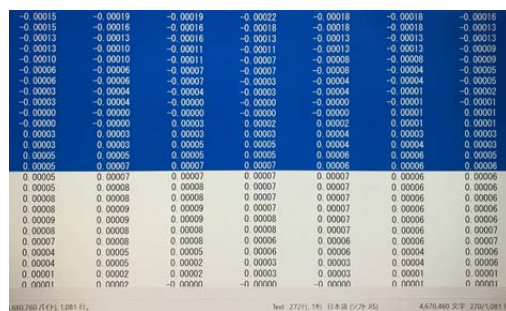
野村仁の個展「時空と生命:表徴化予想と顕れ」を開催します。1970年代より手がけるスコアシリーズの最新作《'CMB' score: 13.8 Billion Years / Temperature Fluctuation》の発表を機に行う、アートコートギャラリーでは2年ぶりとなる個展です。

重力や時間とともに変化する物質の様相をカメラで捉え、活動初期より写真を主要な彫刻作品とする野村にとって、スコアシリーズは天体にレンズを向ける転機と同時に始まり、今日まで継続して制作している重要な作品の一つです。5本線を写し込んだフィルムでアトランダムに撮影した月を音符と見立てて制作したスコア作品《'moon' score》(1975-)は、実際に演奏してみると自然な音楽に聴こえてくる。この発見から、野村は日常を取り巻く現象、とりわけ人が知覚できる範囲を超えて存在する現象の「モト」となる構造や物の成り立ちへの関心を深め、宇宙の起源、地球上の生命誕生へと制作テーマを拡げていきました。



《時空:表徴化予想 / 自発的対称性の破れ》  
2016-2021 | 3DCG

今回発表する《'CMB' score: 13.8 Billion Years / Temperature Fluctuation》は、ESAの探査衛星PLANCK(プランク)が観測した宇宙背景放射(CMB)により、2018年に明らかになった宇宙全体図の温度マップのうち、特定の星座座標を選択し、そのエリアから届く電磁波を読み取ることで譜面化を試みたスコア作品です。宇宙背景放射は宇宙誕生からしばらくして温度が下がり、自由電子に遮られることなく宇宙全体が直線で進む電磁波で満たされた瞬間(宇宙の晴れ上がり)の最初の電磁波であり、宇宙の全方向から現在の地球にも到達し続け、非常に弱いマイクロ波として観測することができるといわれています。野村は、現在観測し得る最古の電磁波が持つ膨大な宇宙情報から抽出したサウンドで展覧会場を満たし、空間を構成します。



本展では、宇宙発生の形を内部構造とともに三次元で表わし1980年代に制作したガラスの連作や、宇宙から飛来し地球上の生物のRNAやDNAを形作ったとされる隕石、太古の地球に酸素を生み出したストロマトライトの化石、生態系の基盤を形成した陸上植物の化石などを用いた作品群(いずれも未発表作)を展覧し、悠久の時空の旅を経て今ここに在る物質同士が宇宙と地球上の生命との深いつながりの物語を語りあいます。

《'CMB' score: 13.8 Billion Years / Temperature Fluctuation》より、スコアの一部

\*物体は温度に応じた波長の電磁波を放つ。PLANCK衛星が捉えた宇宙背景放射(CMB)には小さな温度揺らぎが存在していることが発見され、現在の宇宙空間の構造を裏付け、初期宇宙の環境を示す重要な科学情報が詰まっている。その温度揺らぎの数値を用いてスコアは作成されるが、但し膨大な情報量であることから、野村によれば《'CMB' score》は1,080の楽器と演奏者を要する未知の交響音楽になるという。

また、宇宙空間に顕れるさまざまな現象の形を身近に鑑賞できる形態へと置き換え、3DCGイメージ、ブロンズ、漆などの多様なメディアで制作に取り組む野村ならではの実験精神とユーモアに溢れた新作の数々もあわせて紹介します。

—数十年後、我々が、宇宙空間に浮かんで生活することになり、宇宙の人工的な空間が日常となるなら、精神と身体に与えるインパクトは計り知れません。「畏敬」等について再考することにもなるでしょう。そうして、人の根本が異なってくると思いますが、そのような際においても、アートは限定されたものではなく、拡がりがあり、人の生存について、十分に語り知らせることができると考えます。(\*自然の事象にレンズを向け半世紀を越え、今なお野村の眼差しは表現の兆しとなる光を追い求め、未来の時を待ち続けています。

\*野村仁「自然は時間と共に真の姿をあらわすか」より / 展覧会カタログ『野村仁 変化する相一時・場・身』(2009、国立新美術館、p.14)

#### 【展覧会概要】

観覧先: 野村仁「時空と生命:表徴化予想と顕れ」

Hitoshi Nomura *Space-Time and Life: Signifying Conjecture and Manifestation*

会期: 2021年3月23日[火] - 4月17日[土] \*日・月・祝休廊

会場: アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間: 11:00 - 18:00 [土曜日 - 17:00]

\*会期中一部展示替えの予定があります。

詳細は弊廊のウェブサイト [www.artcourtgallery.com](http://www.artcourtgallery.com) にてお知らせいたします。

主催: アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛: 三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com



参考作品《内部構造:弦4》  
1996 | ガラス、大理石 | 和歌山県立近代美術館蔵  
Photo: Tadao Morishita

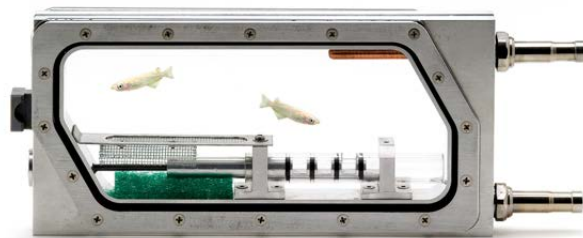
© Artist CV

野村仁 Hitoshi Nomura

- 1945 兵庫県生まれ  
1967 京都市立美術大学卒業  
1969 京都市立美術大学専攻科修了

【主な個展】

- 1987 「近作展2・野村仁 Spin & Gravity」国立国際美術館、吹田  
1989 「Cosmo Chronography」INAX ギャラリー、東京  
1993 「CRYO PHENOMENA」アートギャラリー・アルティアム、福岡  
1994 「作品集『Time・Space』出版記念展」ギャラリーKURANUKI、大阪  
1995 「CHANGE over TIME」スパイラルガーデン、東京  
「CHRONOSCORE」東京都写真美術館、東京  
1996 「CHRONON & PROTOMORPH」中京大学 C・スクエア、名古屋  
「Cosmic Sensibility が作用して・・・」ギャラリーKURANUKI、大阪  
「Soft Landing Meteor & DNA」ギャラリーGAN、東京  
1998 「One with the Cosmos」ギャラリーKURANUKI、大阪  
1999 「Mission to America & Jurassic Giant Tree in Tokyo」ギャラリーGAN、東京  
2000 「New Vision Navigator—ソーラーカーによるアメリカ大陸横断記録—」中京大学C・スクエア、名古屋／京都芸術センター、京都  
「野村仁—生命の起源: 宇宙・太陽・DNA—」水戸芸術館現代美術センター、水戸  
2001 「野村仁—移行／反照—」豊田市美術館、豊田  
2004 「新作展—chroma & chromatic—」アートコートギャラリー、大阪  
2006 「Hitoshi Nomura—An Introduction, Photo works 1975-92—」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク  
「野村仁—Cosmo—Arbor—」アートコートギャラリー、大阪  
2007 「Hitoshi Nomura: Chrono & Chroma」アートコートギャラリー、大阪  
2008 「Hitoshi Nomura: Gravitational Shape & Flavor—The Sun, Meteorites and The Body—」アートコートギャラリー、大阪  
2009 「野村仁:変化する相一時・場・身体」新国立美術館、東京  
「野村仁退任記念展:View From Space, From Here On...」アートコートギャラリー、大阪  
2010 「Hitoshi Nomura:Marking Time」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク  
2012 「Discover Hitoshi Nomura In Hong Kong」Gallery 27、香港  
2013 「野村仁:身体／知覚 又は 私を「私」とおもう私」アートコートギャラリー、大阪  
2015 「Hitoshi Nomura: Contingency and Necessity [ 野村 仁: 偶然と必然 ]」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク  
2017 「野村仁:光と地の時間」アートコートギャラリー、大阪  
2018 「野村仁:宇宙開闢年表 Cosmic Sensibility が成し遂げた3つのステージ又は 限りなく遠い記憶」アートコートギャラリー、大阪  
「日本美術サウンドアーカイヴ—野村仁《音調、強度、時間を意識して、レコード(糸)を操作する》1973年」(Art & Space ここから、東京)



参考作品  
《1/2重力空間の日常》(2001)より、宇宙メダカ  
Photo: Seiji Toyonaga

【近年の主なグループ展】

- 2009 「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ—」東京国立近代美術館、東京  
「Enokura, Nomura, Takamatsu:Photographs 1968-1979」McCaffrey Fine Art、ニューヨーク  
「医学と芸術展—生命と愛の未来を探る:ダ・ヴィンチ、応挙、デミアン・ハースト」森美術館、東京  
2011 「Hitoshi Nomura, Sigmar Polke, Yukinori Yanagi: Works in Progress」McCaffrey Fine Art、ニューヨーク  
2013 「Re: Quest —1970年代以降の日本現代美術」ソウル大学校美術館、ソウル  
2015 「Re: play 1972 / 2015—『映像表現 '72』展、再演」東京国立近代美術館、東京  
2016 「ART1 2016: Stepping into Fresh Snow」アートコートギャラリー、大阪  
2016-17 「宇宙と芸術展 かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ」森美術館、東京／ArtScience Museum、シンガポール  
2017 「アッセンブリッジ・ナゴヤ 2017」港まちポットラックビル、名古屋  
「態度が形になるとき—安齋重男による日本の70年代美術—」国立国際美術館、大阪  
「JAPANORAMA — New Vision on Art Since 1970」ボンビドゥ・センター・メッス、メッス  
2018-19 「アジアにめざめたらアートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」東京国立近代美術館／韓国国立現代美術館／ナショナル・ギャラリー・シンガポール  
「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」国立国際美術館、大阪  
2019 「生きられた庭」京都府立植物園、京都  
「REBORN ART FESTIVAL 2019」ホワイトシェルビーチ 荻浜エリア、宮城  
「DECODE/出来事と記録—ポスト工業化社会の美術」埼玉県立近代美術館、さいたま

【主な作品収蔵】

北九州市立美術館／岐阜県美術館／京都国立近代美術館／京都市美術館／国立国際美術館／埼玉県立近代美術館／滋賀県立近代美術館／  
千葉市美術館／東京国立近代美術館／栃木県立近代美術館／姫路市立美術館／兵庫県立美術館／広島市現代美術館／目黒区美術館／  
和歌山県立近代美術館／Dallas Museum of Art／Getty Research Institute／International Center of Photography／Musée d'Art Moderne  
Saint-Étienne／Museum of Modern Art, New York／San Francisco Museum of Modern Art